

JAPC ニュース 言葉の海 増刊号

# 新型コロナウイルス感染拡大に伴う 失語症のある方、およびご家族 友の会への影響

---

失語症のある方・ご家族・支援者  
アンケート結果報告書

特定非営利活動法人 日本失語症協議会

I.目的	……3
II.方法	……3
III.結果	……4
① 回答結果	
② 回答分析	
③ 失語症のある方向けアンケート	……6
④ ご家族向けアンケート	……10
⑤ 友の会アンケート	……12
⑥ 自由記述	
a.コロナ禍の問題を通じて国や自治体に要望したいこと	……13
b.コロナ禍での障害ゆえの生活のしづらさや社会的不利を感じること	……16
c.<新しい生活様式>が始まり、困ること、必要な情報など	……19
IV.まとめ	……23
資料	……25

はじめに

2020年、そして、今年と世界中に激甚災害をも思わせる新型コロナウイルスが日本中に蔓延しました。

漸く、2021年4月頃からワクチン接種が開始され、順次沈静化をもたらせてくれるような希望の光が差し込んできたように思いますが社会の混乱はまだまだ継続しそうです。

日本失語症協議会加盟の友の会も、失語症のある人には仲間とのつながりが一番の失語症の回復の要因であるという事から、緊急事態宣言の発令のない間は、感染防止対策を十分に保ちながら定例会を細々と実施したという友の会もありましたが、大多数の友の会は活動の休止を余儀なくされました。

日本失語症協議会も全国大会、各種の講演会・講習会・失語症カフェ等も中止せざるを得ない状況でした。

このような新型コロナウイルス蔓延の中で失語症があるという事で日常生活にどのような制限が出てきたのかを明らかにし、今後、同じような環境に陥った折、失語症のある方の生活の改善に役立て、さらに、どのような対策が必要なのかの資料にするために、アンケート調査をさせていただきました。

調査は、2021年1月15日から3月19日までの短期間であるにも関わらず、多くの皆様のご協力を賜り、この度、冊子としてまとめることができ発行に至りました。お力添えを頂戴した皆様には深く感謝申し上げます。

2021年5月20日

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う失語症のある方及びご家族、友の会への影響」  
アンケート結果報告報告書

特定非営利活動法人日本失語症協議会  
理事長 園田尚美

## I. 目的

- ・失語症者やご家族がコロナ禍でどのような不安があり、どのような困難に直面しているのか現状を把握する
- ・<新しい生活様式>に対する戸惑いや困難があるのかを把握する
- ・国会をはじめ、国や厚労省、自治体等に要望する際の基礎資料とする

## II. 方法

- ① 調査対象者:失語症のある方、失語症のある方のご家族、支援者
- ② 調査期間:令和3年1月15日から同年3月19日まで
- ③ 調査方法:書面による送付、および初めての試みとしてWebによるアンケート調査も実施(googleフォームを使用)。また、QRコードを設定し、携帯端末利用者も容易にアクセスも出来るようにした。さらに、4アンケートへの協力を広く呼び掛けるため、日本失語症協議会所属全会員(正会員、個人正会員、賛助個人会員、賛助購読会員)宛てに書面にて送付、また、日本失語症協議会公式Facebookページにも掲載した。
- ④ 調査内容:失語症のある方向けアンケート、ご家族向けアンケート、友の会向けアンケートを作成。それぞれ該当する内容に答えていただけるよう失語症のある方向け、ご家族向けアンケートの内容は、「1.コロナ禍の生活について」「2.<新しい生活様式>について」現在困っていることや、現状を把握できる内容として全13問とした。  
また、友の会については、コロナ禍での友の会の活動についてアンケートを実施した。
- ⑤ 個人情報保護と調査への同意について:個人情報については、プライバシー保護のため、書面では無記名での返答、WEB回答の方はアンケートフォームを使用しているため、個々の回答者を特定することはできず、全体としての集計結果とすることをもって保護し、集計ページにはIDとパスワードを設け、調査者以外はアクセスできないシステムとした。また、自由回答欄にも、個人を特定する内容は記載しないように伝えた。自由回答欄に個人を特定できる内容を記載されている場合には、アンケート集計時に未掲載とした。また、調査への同意については、本アンケートの返送、および送信をもって調査協力に同意しているものとみなした。
- ⑥ 分析方法:自由回答記述欄のテキストデータ解析には、テキストデータを計量的に分析するKH Coder (Version3)を用いた。その分析結果から、分析者が特徴的な記述を判断し抽出した。

### Ⅲ.結果

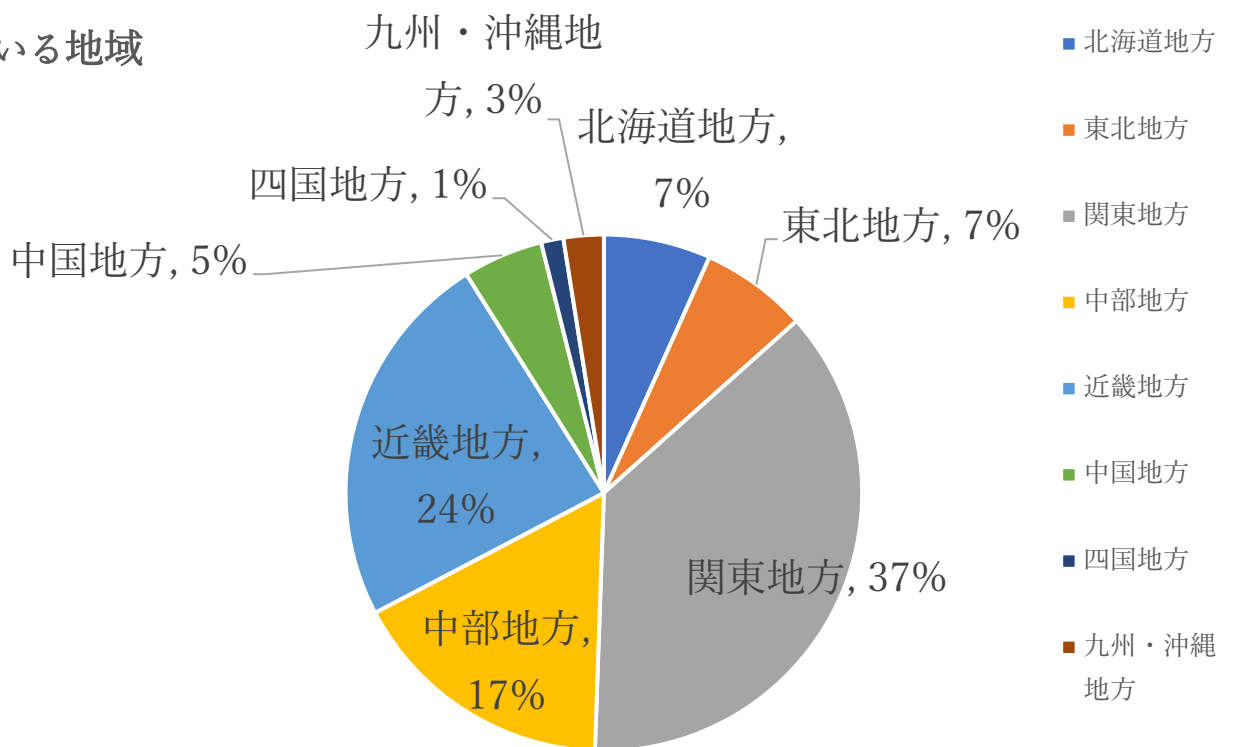
#### ① 回答結果

有効回答総数	書面回答	Web 回答	無効回答数
	171 通 (48%)	187 通 (52%)	

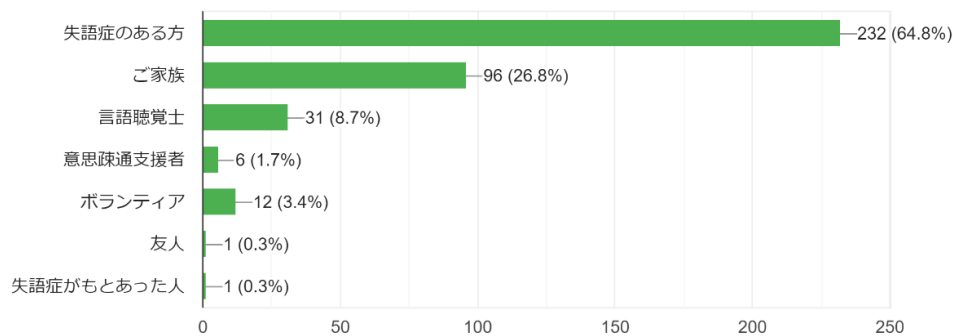
#### ② 回答者分析

・住んでいる地域は、関東地方が多く、続いて、近畿、中部地方となった。回答者、記入者は失語症のある方が最も多いという結果であった。年齢については、失語症のある方、ご家族ともに 70 代が最も多く、次いで 60 代となった。生活環境については、ご家族と同居されている方が最も多かった。

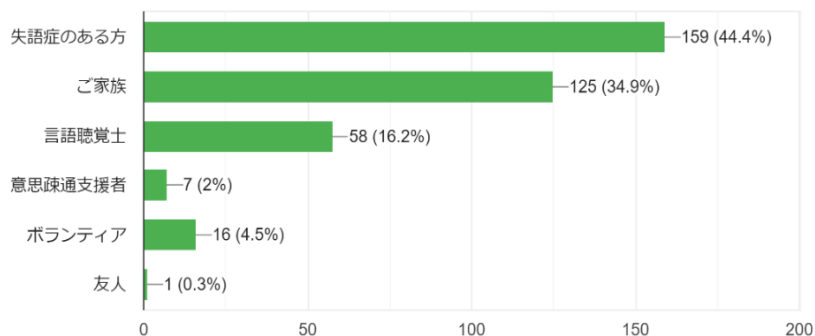
#### 住んでいる地域



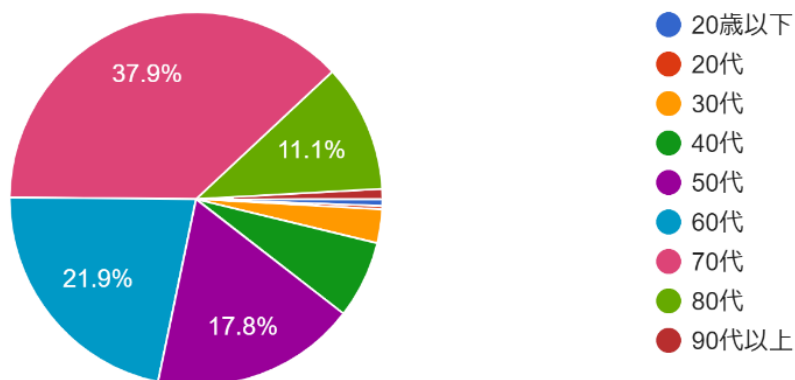
## ご回答者



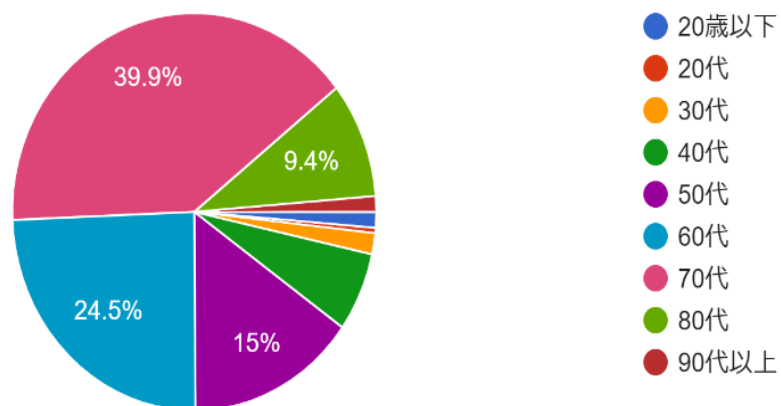
## ご記入者



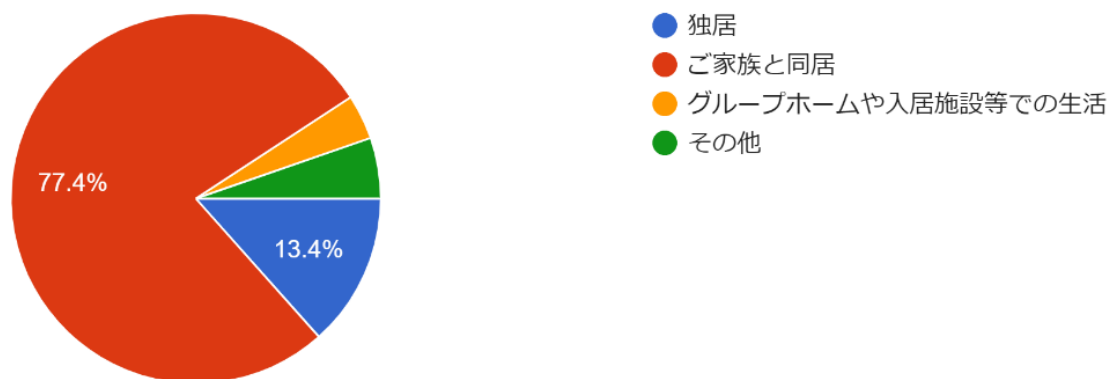
## 失語症のある方の年齢



## ご家族の年齢



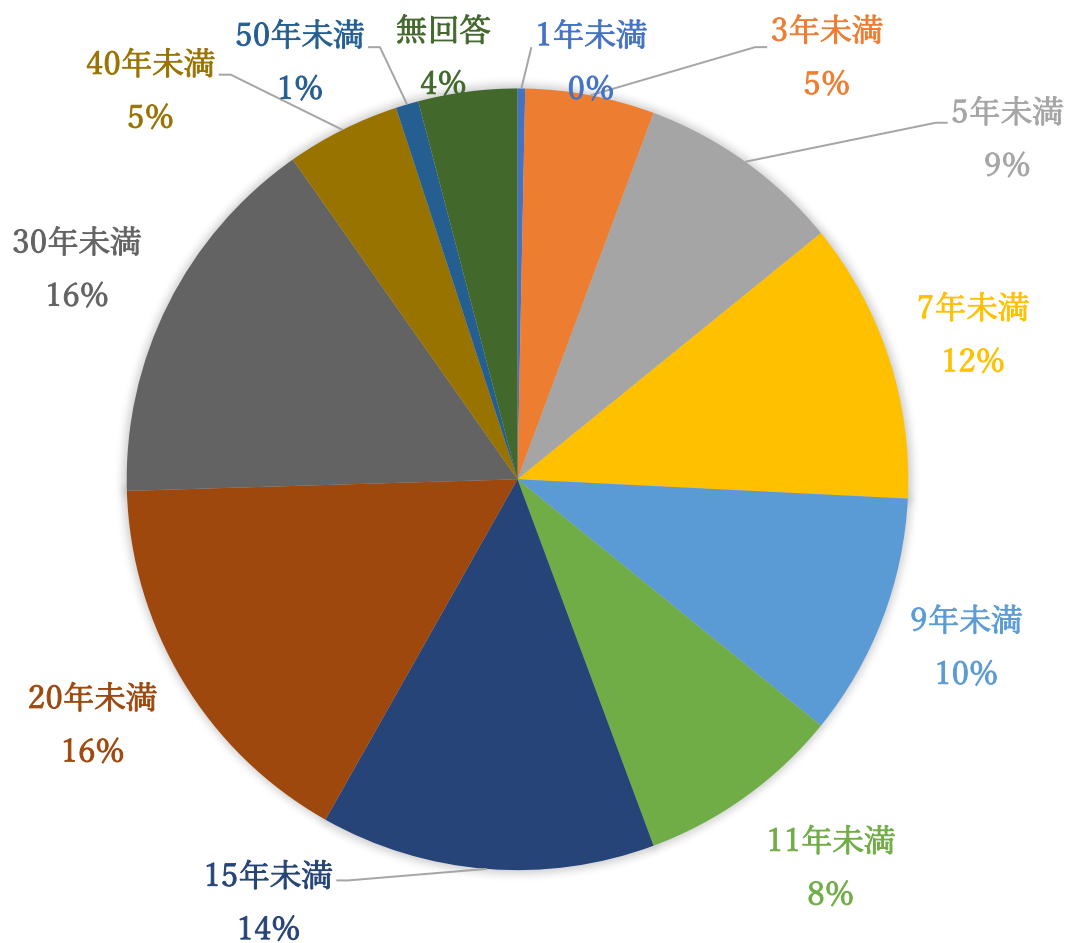
## 失語症のある方の生活環境



### ③ 失語症のある方向けアンケート

・発症年数は30年未満(16%)20年未満(16%)と多く、次いで、15年未満(14%)、7年未満(12%)であった。

#### 発症年数



a.<コロナ禍の生活について>

- ・コロナ禍の生活についての不安で一番多かったのは体調管理や健康面の不安(74%)、次いで感染予防への不安(45%)となった。
- ・コロナ禍の生活で困っていることは、外出を自粛していること(55%)、次いで、感染予防、対策(40%)であった。
- ・コロナ禍の生活で注意していることは、マスクをしている(92%)、次いで手洗いをこまめにしている(84%)、消毒をこまめにしている(71%)が多かった。

<コロナ禍の生活>についてどのようなことに不安を感じますか。当てはまるものをすべて選んでください。	割合
感染予防への不安	45%
体調管理・健康面への不安	74%
収入・金銭面への不安	16%
外出できないことへの不安	34%
外出することへの不安	42%
サービスの利用が出来なくなる不安	27%
特に不安はない	10%
その他	6%

<コロナ禍の生活>コロナ禍で困っていることは何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。	割合
感染予防・対策	40%
医療機関を受診できない	11%
マスクや消毒液など医薬品を購入できない	7%
外出を自粛していること	55%
健康の維持や体力の低下・障害の重症化	9%
学校や会社に行けないこと	3%
サービスの利用が減ったこと、または利用が出来なくなる不安	18%
困りごとを相談できるところがないこと	7%
ご自身や家族の収入が減ったこと	18%
困っていることは無い	14%
その他	5%

＜コロナ禍の生活＞コロナ禍の生活で注意していることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい	割合
消毒をこまめにしている	71%
手洗いをこまめにしている	84%
うがいをこまめにしている	52%
マスクをしている	92%
外出を制限している	63%
その他	4%

#### b.＜新しい生活様式＞

- ・新しい生活様式でマスクをしていると困ることについては、相手がマスクをしていると表情が分からない(42%)、聞き取りにくいことがあるが聞き返しが出来ない(42%)、ついで、マスクをしていると息苦しい(39%)となった。
- ・オンラインの利用に関して、オンラインの利用がなかった(53%)、ある(37%)となった。また、オンライン化で困ることがないという方は49%、ある方が30%となった。
- ・最近の状態やご自身のことについて特に変わったことはない(36%)最も多く、次いで、感染が恐くて、必要な外出などが出来ないことがあった(27%)となった。
- ・新しい生活様式が始まってよかったことは特にない(51%)が最も多かった。

＜新しい生活様式＞マスクをしていると困ることはありますか。当てはまるものをすべて選んでください	割合
マスクをしていると息苦しい	39%
相手がマスクをしていると表情が分からない	42%
相手がマスクをしていると聞き取りにくいことがあるが、聞き返しが出来ない	42%
普段より言われたことを理解するのに時間がかかる	35%
マスクをしていると知っている人の顔が分からない	35%
特に困らない	22%
その他	6%

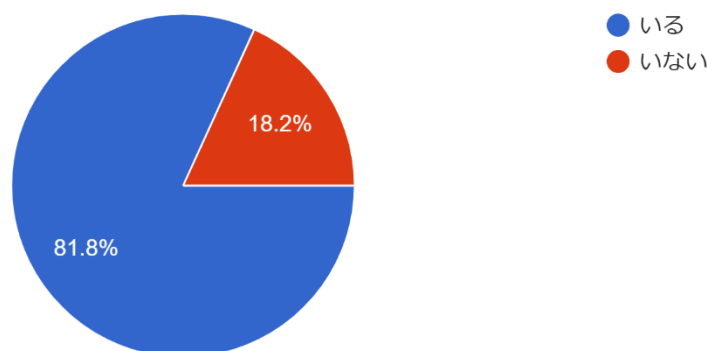
＜新しい生活様式＞オンライン(パソコンやタブレット、スマートフォンの画面を通して会話をする機会)を利用して話をする(仕事を含む)や面会の利用はありましたか？	割合
ある	37%
ない	53%
利用の機会はあったが、使い方が分からなかった	10%

＜新しい生活様式＞オンライン化で困ることはありましたか？	割合
ある	30%
ない	49%
その他	20%

最近の状態や、ご自身のことについて当てはまるものをすべて選んでください。	割合
身体的な不調が増えた/身体状態の悪化	28%
睡眠の問題が増えた(寝つきが悪い、途中で目覚める、昼夜逆転など)	23%
食欲が大幅に変化(減った/増えた)	14%
(20歳以上の場合)飲酒量が2倍以上に増えた	1%
仕事やデイサービスに行くのが億劫になった	6%
感染が恐くて、必要な外出(通勤、通院、買い物)などが出来ないことがあった	27%
怒りっぽくなった、感情の起伏が激しくなった	13%
家庭内のトラブルが増えた	6%
お金に関する心配事が増えた	6%
特に変わったことはない	36%
その他	3%

＜新しい生活様式＞が始まってよかったこと、楽になったことはありますか。当てはまるものをすべて選んでください	割合
家族と一緒にいる時間が増えた	25%
外出しなければならないストレスから解放された	6%
人と会わないので疲れにくい	13%
自分の時間が増えた	21%
オンラインを使えるようになった	12%
特にない	51%
その他	6%

c. 困ったことや分からないことがあるときに相談できる人、または場所(機関でも可)がいますか。



#### ④ ご家族向けアンケート

##### a. コロナ禍の生活について

- ・コロナ禍の生活についての不安は体調管理、健康管理(77%)が最も多くかった。
- ・コロナ禍で困っていることは、外出を自粛していること(51%)、次いで感染予防や対策(45%)となった。
- ・ご本人(失語症のある方)の様子の変化についての問いでは、特に変わったことは無い(52%)方が最も多くみられた。

コロナ禍の生活についてどのようなことに不安を感じますか。当てはまるものをすべて選んでください	割合
感染予防への不安	48%
体調管理・健康面への不安(ご本人・ご家族含む)	77%
収入・金銭面への不安	7%
外出できないことへの不安	31%
外出することへの不安	38%
サービスの利用が出来なくなる不安	17%
特に不安はない	12%
その他	3%

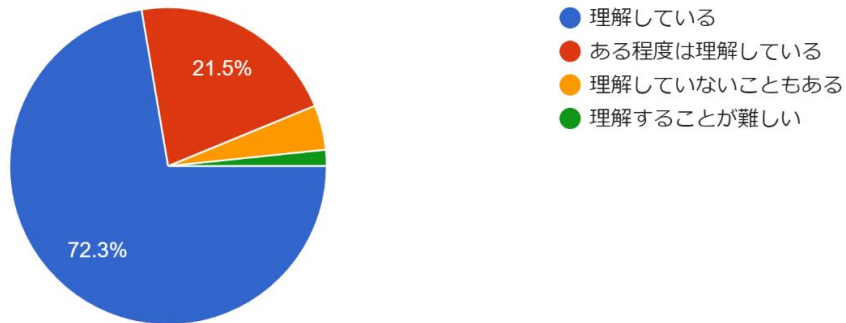
コロナ禍で困っていることは何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。	割合
感染予防や感染予防対策	45%
医療機関を受診できない	11%
マスクや消毒液などの衣料品の不足	6%
外出を自粛していること	51%
食料を含め生活必需品を買う事	7%
健康維持や体力の低下・障害の重症化	32%
会話機会の減少	32%
仕事や学校に行けないこと	4%
サービスの利用が減ったこと、または利用できなくなった	14%
収入が減った	7%
困りごとを相談できるところがない	7%
困っていることは無い	17%
その他	3%

コロナ禍でご本人の様子に変化はありましたか。当てはまるものをすべて選んでください。	割合
身体的な不調や症状を訴えることが増えた	14%
睡眠の問題が増えたようだ(寝つきが悪い、寝起きが悪い、何度も起きてしまう、昼夜逆転)	21%
食欲が大幅に変化した(減った・増えた)	12%
感染が恐くて必要な外出(通勤や通院)などが出来ないことがあった	15%
怒りっぽくなった、イライラしてしまうことが増えた	18%
家庭内でのトラブルが増えた	8%
特に変わったことは無い	52%
その他	4%

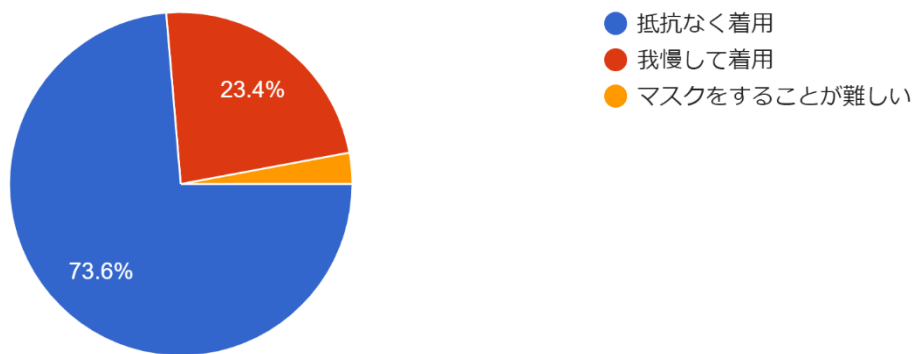
b.新しい生活様式について

・感染予防について理解している方は72.3%、マスクの着用について理解されている方が73.6%となった。

(1)感染予防についてご本人は理解していますか。



(2)ご本人のマスクの着用について



## ⑤ 友の会について

・友の会の活動について、活動が出来ない(中止)が64%、縮小53%と活動に制限が出ている。開催された方の中でも、マスクの着用(84%)、消毒液の設置(80%)、検温の実施(72%)など、感染症対策をしながらの開催となっている会が多く、活動内容の変更(飲食をしない(74%)、歌を歌わない(64%))をしての実施をしていた。

コロナ禍で友の会の活動に変化はありましたか	割合
活動が出来ない(中止)	64%
活動の縮小	53%
出席者の減少	35%
退会者の増加	12%
開催場所を使うことが出来ない	25%
支援者が来られなくなった	21%
その他	4%

コロナ禍でも友の会を開催された方に伺います。開催した際の感染予防対策についてどのようなことを実施しましたか？当てはまるものをすべて選んでください。	割合
検温実施	72%
消毒液の配置	80%
実施内容の変更(以下の問いに続く)	55%
ソーシャルディスタンスを保つ	73%
マスクを着用	84%
その他	3%

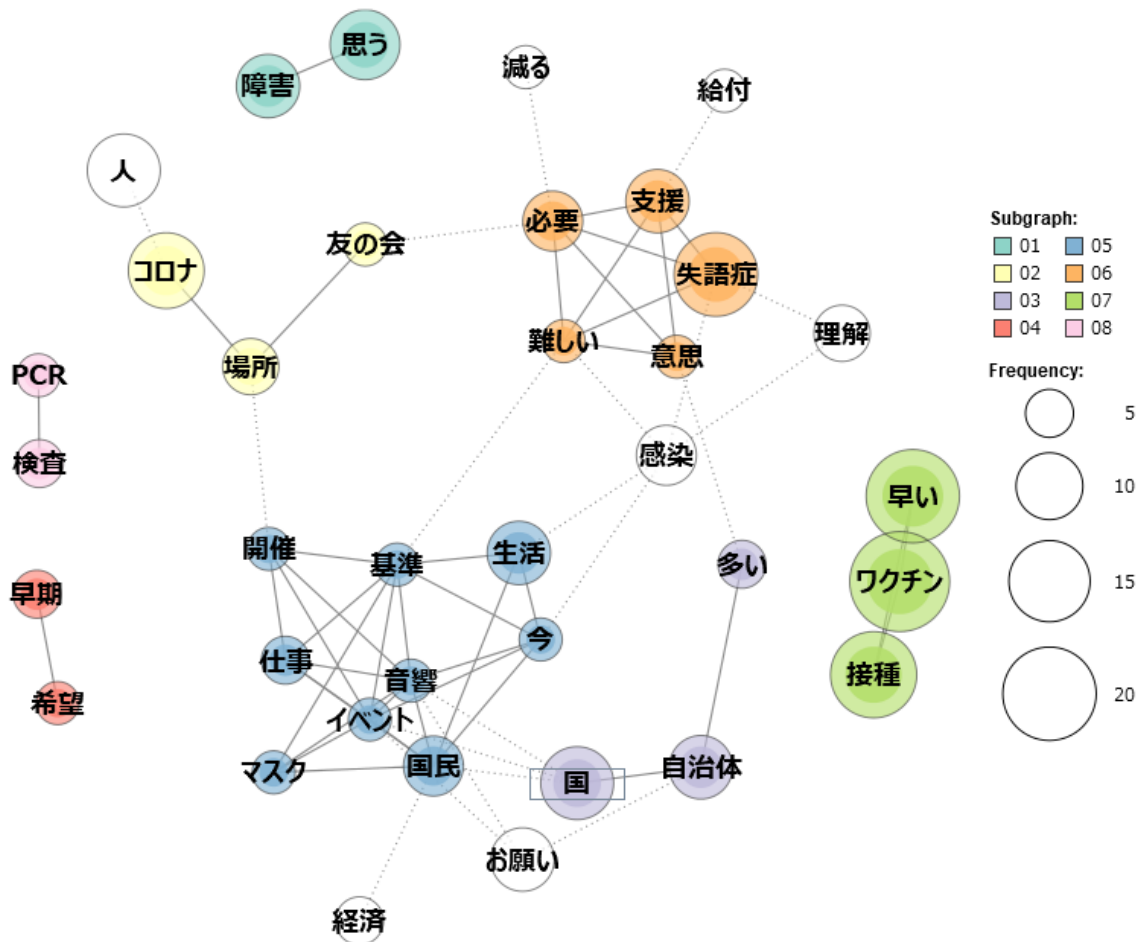
(上記問いについて)活動内容の変更はどのようなことですか？当てはまるものをすべて選んでください。	割合
歌を歌わない	64%
飲食をしない	74%
発声練習をしない	36%
話し合いをしない	16%
外出をしない	20%
その他	15%

⑥ 自由記述

a. コロナ禍の問題を通して国や自治体に要望したいこと

(1) 共起ネットワーク による分析

KH Coder Ver.3 で共起ネットワークを作成。分析に用いた設定値は、最小出現数 4 とした。



(2) カテゴリーの作成及び実際の記述（原文のままだが個人情報にかかわる内容については未掲載）

(1)で示した共起ネットワークにより分類された「失語症(友の会)」「ワクチン接種」「国民生活」「その他」のカテゴリーに分け、実際の記述(原文のまま記載)をカテゴリーごとにまとめた。

i. 失語症に対する支援(友の会への支援含む)

- 支援者の制度化が始まったばかりの段階でコロナ禍に見舞われていますが、今こそ失語症の方々の声を聞くために支援者が必要だと感じます。感染予防とのバランスが難しい。
- 行政は高齢者に重点を置きがちのような気がします。脳疾患による片麻痺や失語症の人々への理解を深めて欲しいです。
- 失語症のある方々がコロナ禍により自主グループ例会の開催場所へ来ることができなくなりました。それは交通機関を利用しなければならないために感染を恐れてのことです。開催場所が徒歩圏内にあれば、感染のリスクがゼロにならないまでも、かなり恐怖感は軽くなって集まりやすくなると思います。失語症のある方のお住まい近くに、居場所をつくってほしいです。
- 失語症のある方は情報取得が難しい方が多いです。給付金の説明、ワクチン接種の説明や同行などで支援者の力が必要です。自治体も意思疎通が困難な方の情報取得に配慮した取り組み(支援者の派遣など)をお願いしたいです。
- 失語症の人でもわかる オンラインでのいろんな情報を集めたサイトの開設
- 失語症者は他者とコミュニケーションを取ることで後遺症の改善が見込まれます。そのため、在宅でもリモート機器などを駆使して他者とコミュニケーションを取る機会が必要です。失語症者でも簡単に操作可能なリモート機器を失語症者および失語症友の会へ提供していただきたいです。また、その機器等の設置から使用方法までを指導してくれる方も必要です。

- ・ 失語症者への日常生活の命を守るための孤立しない、安心できるサポート体制を実施してほしい。
- ・ 病院のリハビリ縮小している所が多い。特に回復期病院で病院の面会禁止は失語症者、障害を持つ人は長期間家族、友人等関係者とのコミュニケーションを断たれ、精神的に病む人が増えている。
- ・ 友の会を開きたいが、開催場所の公共施設は事前の検温、消毒等を自前で用意する必要があり、介護しながらの準備は難しい。サポートする物と人をコロナ禍で仕事が減った方を雇って欲しい。
- ・ 友の会活動等が活発になり、交流する機会を増える様に NPO 等での啓発できる様等の誘導してほしいです。
- ・ 施設(特養)に 15 年待ってやっと入れたら、STにはいって頂くことはダメだという。家族としては、わずかの光明も断たれた。
- ・ 失語のため、スマートフォン等で新しい情報がとれないため、別の方法で情報を正しく速くとれる別のルートが欲しい
- ・ 障害者に対して情報が欲しい
- ・ 情報がわからない
- ・ 情報として、感染者数、自シユクの基準など理解しようとしていたが、一人暮らしだと閉じこもるしかない。ほかの情報は難しい。
- ・ 右半身不自由で全く話せず、意思を伝えられないので、コロナについて、どこまで理解しているのか不明で、マスク、外出できない意味が分からない様子。TV を見る機会が多く、このような症状の人もわかるような、文字での放送等(紙芝居等)もしてほしい
- ・ コロナ以前から障害者は、コロナ禍の生活様式をしています。今回、全員が制約のある日常を体験した事で、少しは我々のストレスフルな生活に思いを寄せてもらえるとうれしいです。コロナが去っても我々の障害生活はエンドレスです。見た目だけで、障害を単純に判断せず、高次脳機能障害を学んで手帳や年金の等級を決めて欲しいです。
- ・ 実際に困難をかかえている方の支援をしてもらいたい
- ・ 就労先の障害理解、在宅勤務において失語症当事者が健常者と比べハンディを抱えていることを理解してほしい。DIX 化が進み、ますます働らきづらくなる可能性があるとおもう。当事者への理解と組織的な支援の強化は必要だと思う。
- ・ テレビをつければ患者の数だとか全国で何人コロナにかかったとか、毎日その様なことばかりで、パソコンを使えない高齢の者にも具体的に給付金のこととか補助金の事とかを解り易く説明してほしい。

## ii. ワクチン接種

- ・ コロナで病院に行くのも心配で早くワクチンをお願いしたいです (同意見多数)
- ・ ワクチンをいつ打つことが出来るのか、明確に知りたい。
- ・ ワクチンの早期接種を希望するが、後遺症が怖い。
- ・ ワクチン接種の申し込みをわかりやすくしてほしい。
- ・ 予防接種がどのような場所でいつやっていただけるのか心配
- ・ 国産ワクチンを希望します、ワクチンの情報を開示してほしい
- ・ 持病があると判断してもらえて、優先的にワクチン接種できるのだろうか、持病の判断を教えてください
- ・ 総てにやる事が遅い。例、ワクチンの接種の段取り(昨年 10 月～11 月には、決められたはず)
- ・ 65 歳以下で 1 級の人 65 歳の人たちのつぎなんですか。65 歳の次なんですか。

## iii. 国民の生活や経済活動(仕事など)

- ・ 経済活動も大切だが、感染を 1 日も早く収束させてほしい。そのためには、今現在の生活に多少の不便があっても良い。Goto などのキャンペーンや海外からの渡航者受け入れは、絶対再開すべきでない。国民の範を示すべき政治家が会食をしては注意を受ける様な気構えでありながら、自粛をしない国民に罰則を科そうとするのは本末転倒。まずは自分が自粛して、また、賃金カットや収入減、失業などで生活に困っている国民がいるのだから、議員や役人は自分たちも給与カットを断行して国民の救済に当てるべきだ。
- ・ 給付金と業務支援の確保

- ・ 私は仕事で舞台音響をしております。イベントも制作会社含め、生活の為に必死になっております。もちろん、制作、音響、照明、映像含め、検温やマスク着用、お客さんに対してソーシャルディスタンスをしております。東京オリンピックやコンサート、ファッションショー、トークショー、展示会などなど皆イベントです。今の国の基準だと、イベントを開催して良い基準と、いけない基準が分かりづらくてしょうがありません！ もう一度申し上げます。我々は、生活の為に必死です。舞台音響の仕事を楽しんでおります。もう少し国民に寄り添った、国の支持をお願い致します。
- ・ 国の対策に不満 中小企業、個人事業の倒産が気の毒 自しゅくと保証をしっかりと示す。
- ・ 国や自治体の予算も減ると聞いていますが、福祉に必要な予算は確保してもらいたい。
- ・ 国や自治体はせーいっぱいやっていると思う
- ・ 国や自治体は介護施設に充分チカラを入れて欲しい。
- ・ 少しでも、早く前の事業ができることを希望しています
- ・ 頂戴したこの様な「アンケート」を自治体や町内会が率先して実践して欲しい。②自助・共助・公助にきめ細やかな処方箋(わかりやすい表現)の提供をお願いします

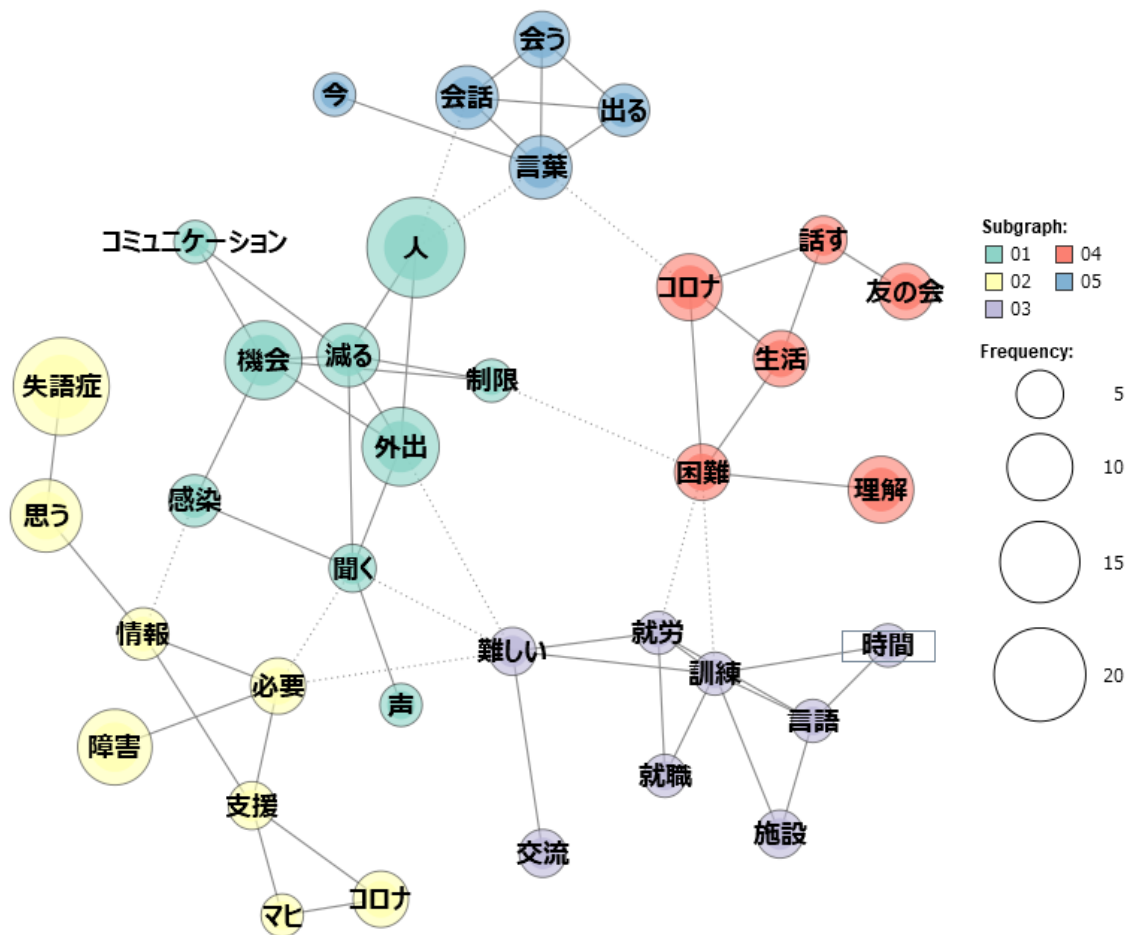
#### iv. その他

- ・ pcr 検査の拡充
- ・ オンライン環境と、端末を各世帯に一つ配置して欲しい。
- ・ 医療体制を整えてほしい。一年間の検証とこれからの記録を、しっかりと、先回りの対策を示してほしい。
- ・ 家族に会えない、葬儀を不義理したりと我慢ばかりです
- ・ 自分が入院した時にお世話になったお医者さんや看護師さんが、きっと大変な思いをしているだろうから、少しでも楽になれるようにしてあげてほしい。
- ・ 職員や会の手伝いをしているボランティアさんなどに PCR 検査を公費でやってほしい。本人たちにも PCR 検査をやってほしい。
- ・ オリンピックを意識して検査をはったりしないでほしい。日本政府得意の情報そうさ。今はネットが発達しているからウソをついてもすぐにバレる。
- ・ 緊急事態宣言など突然、地域の病院や商店やスーパーなどの運営が変わることや、品切れなどの情報など、その場所に行かないとわからないことがたくさんある。自治体に生活情報を確認できるサイトがあって、午前、午後で更新されているとありがたいです
- ・ 正確な情報を国からだけでなく、地域の自治体から多く発信してもらえたらより身近に感じて協力しあえると思いました。
- ・ ロックダウンして欲しかった
- ・ 家族に会えるようにしてほしい ・感染者が減らないようなら、オリンピックはやめてほしい ・とりあえず、コロナが全くない状態にしてほしい

b. コロナ禍での障害ゆえの生活のしづらさや社会的不利を感じること

(1) 共起ネットワーク による分析

KH Coder Ver.3 で共起ネットワークを作成。分析に用いた設定値は、最小出現数 4 とした。



(2) カテゴリー分析 (原文のままだが個人情報にかかわる内容については未掲載)

(1) で示した共起ネットワークにより分類された「失語症」「友の会」「外出機会」「言葉・会話」「就労・就職・訓練、施設での訓練」「その他」のカテゴリーに分け、分析者が特徴的な記述の一群だと判断した実際の記述 (原文のまま記載) をカテゴリーごとにまとめた。

**i. 失語症に対する理解**

- ・ コンビニやスーパーのレジで失語症だということを示しても、失語症自体を理解してもらえない。
- ・ コロナ禍により、私たちは今まで聞いたことない言葉や用語を、大量に聞くようになりました。COVID-19, Pandemic, overshoot, Alert, Social distancing など、さらに状況を説明したり、コメントする側の人たちは、英語 (和製英語も) 表現を多用しています。sustainability, commitment, evidence, agenda など、こうした言葉を多く含む呼びかけや解説は言葉の障害を持つ人にとっては厳しい状況です。いろいろな人に、しっかりと正しく伝わるように発信していただきたいと思います。
- ・ 家庭での介護者がコロナに感染した場合失語症本人の世話について
- ・ 失語症の人の集まりと「不要不急」について迷った
- ・ もともと右半身マヒだったが、散歩程度していたが、1日中座ってTVをみているので、足首の関節が固まった。また便秘に苦しみ、機嫌悪い。←このことを家族に伝えられず怒りっぽくなった。
- ・ 情報の受信と理解が困難
- ・ 失語症で話すのが不自由ですが、最近さらには言葉が出にくくなっており、歩行困難も進んでいるようです。
- ・ 言葉が出ず会話がほとんど出来ないため、人と会った時の挨拶は必ず握手をしていたが、今はできる限り握手はやめてほしい。が、本人が理解出来ないため止めることが出来ない。それがとても困っている。

## ii. 友の会

- ・ 楽しみにしているのに、北の会例会ができない
- ・ はやく友の会が再開してほしい、活動が出来ないなど 同意見多数
- ・ 友の会の活動が中止になったり、制限されることで、会員の方に会う機会が減って淋しいです。
- ・ 友の会が開催されなくなったが、対策を取った上で、希望者は参加できるようにしてほしい。
- ・ スマホやパソコンが使えない失語症の方に情報が行き渡らないので、伝える人が必要。友の会は情報交換し合うことができるので大変重要です。もっと予算や公的な支援が必要だと思います。
- ・ 友の会が中止となり、コロナで自粛生活が続く中、さらに話す機会が減少している
- ・ 毎月一回の「友の会」の集まりがコロナ禍で休会しているので、友人と会って話す楽しみがなくなり、他の会合も同様な家の籠ってばかりの生活で心身共に影響があるのではと心配です。
- ・ コロナ感染の危険性や予防策などについて、会員に浸透するまでに時間がかかった。情報がきちんと届いていないからではないかと思った。テレビや新聞の内容を正しく理解できるように支援が必要だった
- ・ 早く旅行に行ったり会の行事(新年会等)が皆さんと自由に出来る生活になってほしいです。
- ・ ライン、ZOOM 機能が理解できないことで、交流がとだえてしまう。

## iii. 外出や人に会う機会の減少

- ・ 外出時、人の手助けが必要な場面でも、気軽に周囲の方に声をかけることが難しいとの声を聞いております。
- ・ 外出や人との交流が殆ど無くなり、歩行もだんだん難しい時がある
- ・ 感染が怖いので外出機会が極端に減り、コミュニケーション機会がなくなったと言われる声を聞きます
- ・ 外出する機会がもともと少ない為大きな障害はないが意識的には「きゅうくつな」気持ちです
- ・ 外出の機会が減り、デイサービス、訪問リハビリ以外人との関わりが殆どなく、淋しい。(ガイドヘルパーさんとの外出※(障害者センターでの活動、バス旅行等)出来ていない)
- ・ 外出できないこと人に会えないことに不利益を感じる
- ・ 人と長い時間話ができない。やはり顔を見て対面で話がしたいです。
- ・ ホームステイになり、バサバサ一人で外に出歩くのが問題に
- ・ 外食の際、セルフサービス中心、1人では無理な所ばかりでした。
- ・ 買物、外食も出来ずストレスでした
- ・ 外出に制限があるため、在宅で健常者のようにインターネットやリモート機器などの代償手段を使用したいが使用方法などの理解が困難。
- ・ コロナの関係で、散歩は冬の間(10月～)しておらず、足が歩きにくい。

## iv. 会話機会の減少、言葉の出にくさ

- ・ 失語症だから、言語障害があるからといって、とりわけ厳しい生活を強いられているわけではないかもしれないが、言語障害者には、人との交流が何よりのリハビリテーションであり、その機会が減ってしまっているのは、回復や社会復帰がままならない一因になっている可能性が高い。施設によっては言語訓練の回数が制限されたりしていると聞く。私の施設でも、集団訓練を取りやめ、個別訓練だけになったので、ST 以外と会話をしたり、仲間づくりをする機会が失われている。また、福祉作業所に職を得た人が、就労する頻度が減り(職場のソーシャルディスタンスのため)、収入が減っている。一人で外出が難しい場合、支援者に同行してもらい近距離での意思疎通を図る必要があり、それが困難であると外出機会がなくなってしまう。
- ・ 失語症で話すのが不自由ですが、最近さらには言葉が出にくくなっており、歩行困難も進んでいるようです。
- ・ 失語症には会話が一番のリハビリになると言うのに、(リハビリを含めて)会話する機会がない。
- ・ 失語症の人にとってはしゃべる機会が閉ざされてしまうのでなんか方法などあったら教えていただきたい。
- ・ 人と会ったり会話することでコミュニケーション能力を維持、改善できるはずなのに、その機会が失われている。認知症の発症なども心配
- ・ 話す内容がさらに、通じなくなっている。
- ・ 言葉が出ず会話がほとんど出来ないため、人と会った時の挨拶は必ず握手をしていたが、今はできる限り握手はやめてほしい。が、本人が理解出来ないため止めることが出来ない。それがとても困っている。

- ・やはり人と会う事がむずかしいこの頃なので、外出も出来ず、会話も減ってそれでなくても言葉が出ずらいのに増々引っ込み思案になってしまう。
- ・人との会話が少なく成り言葉が出なくなった。もっと失語症の人を理解してもらえるとありがたいです。
- ・人との交流が減少し、一層言葉が出ずらくなっている。
- ・マスクで相手が口もとが見えず会話が分かりにくい、又声が小さくなる為聞き取りにくい。
- ・マスクをしているので、相手の表情が分かりにくい事は失語者には不利になると思います。
- ・高齢者が多いことや病気の性質上、マスクや消毒に対する理解不足から大声で話したりすることにブレーキがかかりにくい。
- ・都会と地方によって社会的不利は違うと思うけどマスク等です。
- ・コミュニケーションが更に難しくなった。マスクをしていると特に口元が見えないので失語者にとってとても不利。

#### v. 就職・就労・訓練・施設での訓練の難しさについて

- ・高次脳機能障害を持つ方の就職困難について:障害枠で就労されてましたがコロナ禍により就業打ち切りになり、再就職が難しい方がいらっしゃいます。再就職のために資金補助を受けて、訓練を受けていますが、なかなか決まらない状況です。今回は健常者と同じ土俵での就労を目指しており、就職へのハードルがより上がっています。
- ・時差出勤をもっと励行して、混雑率を下げて、座れるようにしたい
- ・就労していたが仕事が無くなった
- ・職場の業務分担や変更が続くので、その間は自宅待機になり、給料がなくなった
- ・日常生活の中で、失語症があることで仕事に就くことが困難であり、生活の中で言葉がストレスを感じています(ノーマライゼーション)は、まだまだ遠い。コロナ禍の中でなくてもこのような辛さがあります。コロナ禍であることが、そのようなことが、増長させる原因になっています。
- ・介護関係では職員の手不足でサービスが低下している。障害者のワクチン接種の不安、会場への足、同行者が必要、会場でのバリア等々の不安
- ・特に無いがデーケアが危くて行けないのは明らか、デイケア施設でのクラスターもありこわい
- ・介護者が在宅で居るので作業所やデイケアが中止になっても対応できているが、在職時だったら無理でした。作業所は通所、入所を分けてあり、送迎も可能な限り自家用車となって、時間に追われ疲れます。  
現役の方達は時間も費用も大変かと思えます
- ・言語リハビリに支障が出る。
- ・施設に入所しているので施設の方針に従わなくてはならない。例えば、デイに行けなくなった、買い物に行けなくなった。
- ・有料老人ホームの規制が厳しすぎて、訪問サービス、外出全てを自粛されている利用者さんがいること。
- ・コロナの為デイサービスが短くなった時もありましたが、それもすぐに元にもどり、今はまったく変りなく利用できています。

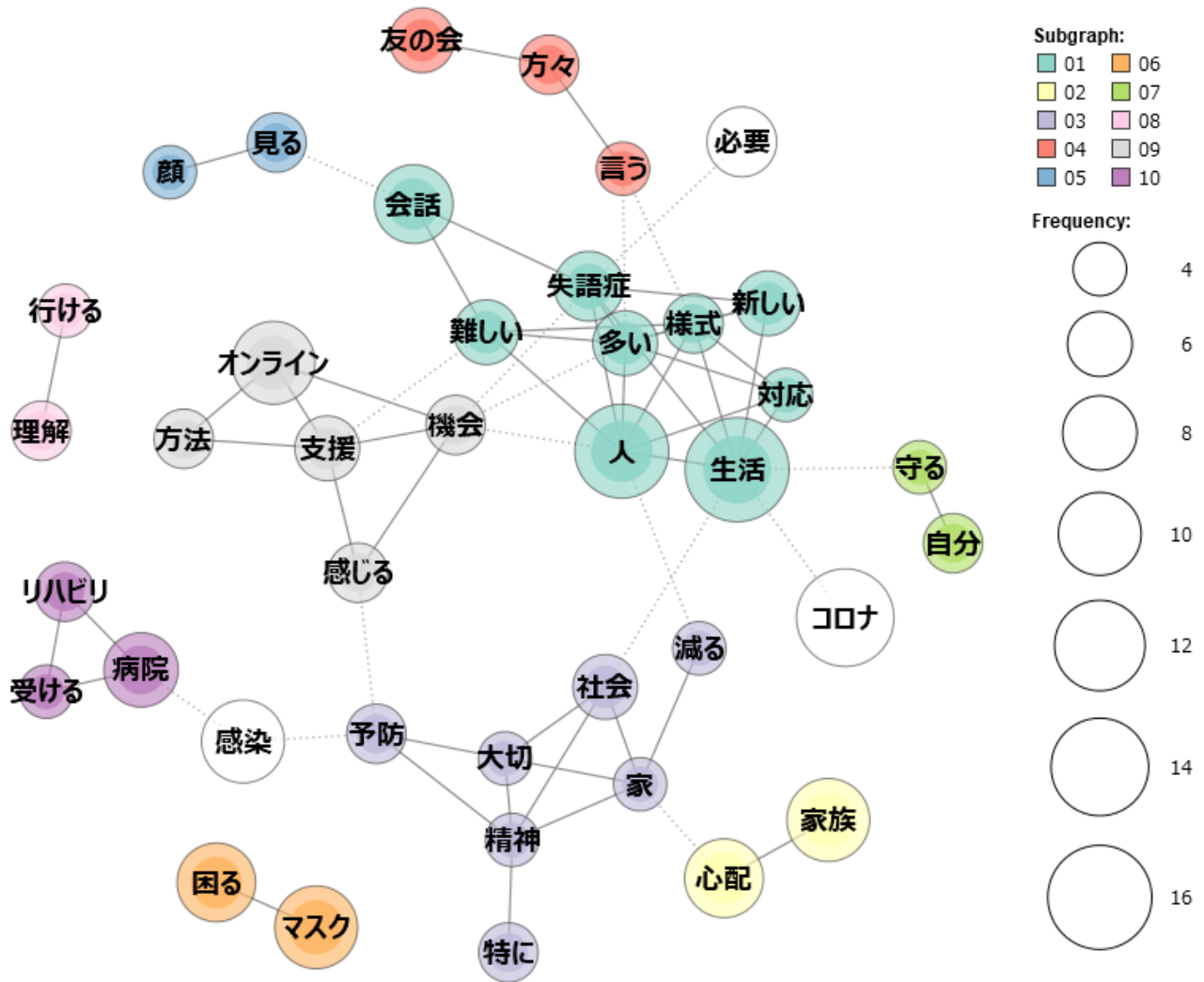
#### vi. その他

- ・外出に制限があるため、在宅で健常者のようにインターネットやリモート機器などの代償手段を使用した使用が使用方法などの理解が困難。
- ・かかりつけ医が近くにいない困ってしまう。
- ・バリアフリー対応の情報表示(看板、地図等)
- ・骨折したが入院出来なかった。
- ・いままでとかわりない
- ・特に障害とは関連しません
- ・障害者のワクチン接種の不安、会場への足、同行者が必要、会場でのバリア等々の不安
- ・現在、面会禁止措置継続中。いつになったら…が最大の不安事。
- ・自粛生活の中で増加する心身のストレスを解消方法をアドバイスを欲しいです。
- ・保健所でメールをして欲しい
- ・役所の担当は会わないと伝えられない、このアンケートも同じだが、決まった答えばかりで心が無い。1つ1つ書きたいが、右マヒなので許して欲しい。でもアンケートはやめて欲しい。どれだけの労力があるか

c. <新しい生活様式>が始まり、困ること、必要な情報など

(1)共起ネットワーク による分析

KH Coder Ver.3 で共起ネットワークを作成。分析に用いた設定値は、最小出現数 4 とした。



(2) カテゴリー分析(原文のままだが個人情報にかかわる内容については未掲載)

(1)で示した共起ネットワークにより分類された「失語症」「理解」「オンライン」「友の会」「マスク」「リハビリ(病院)」「その他」のカテゴリーに分け、実際の記述(原文のまま記載)をカテゴリーごとにまとめた。

i. 失語症者やご家族の<新しい生活様式>への対応

- ・ デリバリーを利用する。②狭い部屋の長時間は避ける。③横並びで座る。④お喋りは極力控えめに。⑤散歩は、公園等空いた時間です。
- ・ すでに会社に通勤している訳でもなく、住んでいる場所がイナカということもあり、有難いことに今のところ、特に困っていることはありません。今現在、通所している施設がいつも通り開設してくれていることが精神的にも身体的にも安定している大きな理由だと感謝しています。
- ・ 人と出会う機会をなくすことは致命症に感じる。ことばを伝える。意思確認が取れない生活が続くと人権が守られていない。失語症の人にとって、意思疎通支援へのサポートを検討してほしい、必要性を訴えたい
- ・ まずは当たらず生活規則に慣れることです。
- ・ 体操をしています。
- ・ コロナに感染した場合の症状や対応方法が知りたい
- ・ コロナの詳しい症状や受診の仕方
- ・ 出かける事が少なくなり、話す事も少なく、運動不足。
- ・ 出先での手指消毒がポンプ式が多く片麻痺ですと上手く使えません。自動を置いてもらえると有り難いです。

- ・ 友人と直接会う事はせず電話(長電話)ですませていました
- ・ 今までになく、ゆっくりと過ごすことが出来、家の中に目が行きました。前々からしなくてはと思って来たことが出来、思いのほか困ることはなかったです。思いついたときにどこへでも出かける事が出来にくいのが不便だと思うくらいです。
- ・ 人と自由に話すことが出来ない。
- ・ 孫に会えないことで淋しいのですが、コロナが終息するまで仕方ないと思います。そんな中、デイサービスは対策をとりながらサービスを受けられているので助かっています。
- ・ 障害者に対しコロナ禍により冷たくなっている(世の中)と感ずる。
- ・ 唯一、独りで買い物へ行っていた近所の大手スーパーの支払い方法が対人からセルフ精算になり、操作方法が理解出来ず、独りで買い物へ行けなくなった。
- ・

#### ii. <新しい生活様式>への理解について

- ・ 本人がコロナに対して関心が低いので、現状を理解させるのに家族が苦勞している。
- ・ 外出させないようにすることが大変です。
- ・ ソーシャルディスタンスが難しい
- ・ 家族の休日にストレス発散がてら外出に連れて行っただが、今は行けずまた情報もうまく伝わっていないため。怒りっぽくなった。TV(ふつうの)では理解できない。
- ・ 新しい生活様式=施設内での事象をどうやって本人に理解してもらったら良いの？

#### iii. 支援の難しさ

- ・ 失語症のある方々が、定期的に自分以外の人々と交流し会話の機会を持つことは、その方の生活の質を保つ上で非常に重要なことです。<新しい生活様式>で三密を避け、マスクを着けて会話することは失語症のある方々にとって非常に困難が大きくなります。これをどう解決したらよいか、本当に難しいです。悩みます。
- ・ コロナへの不安から、ご家族の配慮またはご本人の意志で外出を自粛され、家に籠る生活をしていらっしゃる方が多数いらっしゃいます。感染予防はとても大切ですが、免疫力アップも大切です。また、精神的に不安定になる方、認知症が心配な方、特に鬱傾向になる方へのフォローの大切さを実感しております。
- ・ ソーシャルディスタンスを保ちながらの会話の支援は難しいと感じる
- ・ デイサービスにいらっしゃるだけで、ご家庭での生活の何倍もの刺激を得ることができるので、万全な感染予防対策をして、できるだけ、社会との繋がりを保っていただくのがいいと感じております。精神面での変化にも気づきやすくなります。身体面、体力面の維持向上と共に、精神面での予防、フォローがとても大切であることを伝えたいです。
- ・ 言語障がいの方たちや家族の交流の場がもっと活発になるように言語聴覚士も協力したいと思っています
- ・ 人と出会う機会をなくすことは致命症に感じる。ことばを伝える。意思確認が取れない生活が続くと人権が守られていない。失語症の人にとって、意思疎通支援へのサポートを検討してほしい、必要性を訴えたい。
- ・ 経済活動との付き合い方が、慣れるまで人によって違う。積極的に旅行など参加する方もいる一方、それも叶わぬ人もいて、特に1人暮らしの方に差があり、周りの対応が欲しい

#### iv. オンラインの使用機会について

- ・ オンラインで会話と言っても、失語症のある方々は高齢の方が多く、新たにオンライン会話の知識や操作を習得することも容易ではありません。失語症会話パートナーもどちらかと言えば、そういったことは「苦手」の人が多いです。打開策がなく、困っています
- ・ オンラインで繋がることは簡単ではない。支援者が必要。意思疎通支援者の派遣をもっと早くスキームとして国が示すべき。身体障害者手帳の所持者のみが派遣対象なのはナンセンス
- ・ オンラインでもある程度満足を得る交流の方法があることが試行錯誤の結果わかった。今後工夫の余地があると思われた。しかし、オンラインでの支援を受けられない人には参加が難しかった
- ・ zoom が使える環境のない方と、交流がとれない
- ・ 緊急事態宣言中、外出自粛で友の会が休会中の時、オンライン(LINE ビデオ)で連絡を取る機会を作ったが、画面が写らなかったり、トラブルが発生。使い方をよくわかる者同志ならよいが、上手くいかなかった。それ以降、オンライン通話は立ち切れとなってしまった。会って顔を見て話をする方

が当事者の方は安心するよう感じました。ただ、中にはスマホを上手に使いこなしている当事者の方もいるので、これからは、オンラインでの支援方法も取り入れられたらと思います。

- ・ スマホ、パソコンの使用がむずかしいため、新しい生活についていけない
- ・ コロナ禍の中、80を超える両親は人とのつながりがめっきり減り、母の失語症の症状はどんどん悪化している気がしています。残念なことに、両親共にスマートフォンなどは使いこなせず、子供達、社会人が自宅でリモートで会話をする、何かの会に参加することもむずかしいです。家族が近くにいれば手伝いも出来るのですが、なかなか、そうもいかず、これから先の生活が心配です。
- ・ 子供でも使えるような簡単なビデオ通話ができるもの、もしくは家の中で常に必要があるときは顔を見て話をができるような機能あるものがあればいいのにとおもいます。
- ・ スマホ、パソコンの使用がむずかしいため、新しい生活についていけない
- ・ 非接触型社会への対応をとる。社会へと変化する中で、インターネットやスマホからの手続き、予約、申し込みが急増しています。これが難しい。ネット社会に疎いものにとっては、いたる所で不利益を被ります。若い世代が身近にいない私たちにとっては、ほんとうに厳しい状況です。買い物に出ても、機械操作が難しく、すぐに機種も変わり、おろおろします。こうした、しくみやあつかい方などを、教えて頂ける場を多く作ってほしいと思います。＜新しい生活様式＞は、すべての人にやさしくさらに住みよい社会であるべきだと願っています。
- ・ 電話は使用できるが、パソコン利用不可どう勉強すればわからない。
- ・ 機械が出来ないのでパソコン・オンラインといわれても出来ない。
- ・ 同居の娘の夫がテレワークになり、その為の部屋がなく一ヶ月くらいかと思っていたのに1年になり困りました。夫のST・PTさんが来てくださる部屋と同じで
- ・ オンライン化が進み高齢者世帯が孤立しないか懸念しています。
- ・ 話すことが減り、失語が悪化。ネットを通じてお話ができるよう。通訳する人がいたら。

#### v. 友の会

- ・ 在宅で、ディケアや友の会などに参加できなくなっている方々についても、コミュニケーション能力の低下につながってはいないか、と心配です。
- ・ 友の会の再開時期を熟慮中です。全国大会も待ち遠しいです。
- ・ 病院を借りて友の会をやっていましたが、貸してもらえるかどうかわからなくなりました。皆さんが通いやすい公共施設をかりるのに、費用負担は重荷になります。公共施設を無料で貸してもらえるか、費用の助成があると助かります。
- ・ コミュニケーション介助を行う際に距離をあけることができない。参加者同士の距離をあけることで、参加者相互の会話ややり取りが困難となる。友の会を開催されている所の、活動内容等を具体的に知りたい。
- ・ 友の会やグループリハビリの中止で、家族間や専門職への質問や情報共有のチャンスがなくなりました。「困っているなら言ってこい」ではなく「こんな制度が利用できる」や経験者の体験談が知りたいです。各々の病気についての予測やそれに共なる手続き等、今後、起こるであろうフィッシュボーンチャートがあると前もって心づもりができてありがたいです。初めて見聞きする専門用語や専門職の方々にかこまれてパニックでした。
- ・ 少ない楽しみである家族会でのランチなどが無くなり親しく交流できなくなった
- ・ コミュニケーションの機会が減る。みんなが集まったの会合や活動が制限される。基礎疾患を持つ人も多いので、ますます集まりにくい。
- ・ 集合開催への参加を呼びかけにくい
- ・ もっと色々な交流場所があればいいです。
- ・ 月一回の北の会の集まりは楽しいです！！

#### vi. マスク

- ・ マスクが息苦しくて困っている。愛媛県は最近感染者ゼロの日も続いているので、都会も頑張って減らしてほしい。そしてできるだけオリンピックも成功させてほしい。
- ・ マスクをしていると、声が聴きづらく、口が見えないため、会話においては言語理解が困難になるし、また、訓練の場でも口を見ながらの構音練習などがしにくい。
- ・ 半身不随で片手で手洗い、マスクの着用、特に手洗いは困り、家族に頼っている。

- ・ マスクをしていると顔の表情などわかりにくい。
- ・ マスクがしているので、顔や耳が赤くなりかゆくつぶつぶになり、ひふが痛くなる
- ・ ハイキング等、外出ができなくなり、困っています。暖かくなると、マスクを付けることが苦しくなる。
- ・ 今はまだ寒い時期ですので、マスクをすると冷たい風にも、さける事が出来る？ようですが、少しずつ温度があがると汗が出る！！予想です。メガネ、補聴器、マスクは大変です。
- ・ あらゆる面で予定が立たない 外出は必要最低限にしている。特に玄関を一步出ればマスク装着

#### vii. 通院・病院でのリハビリについて

- ・ 体調が悪いと感染したのではないかと心配になる。気軽に病院にも行けない。
- ・ 1ヶ月に一度病院で診察があるが、コロナで電話での診察になっている。感染予防などの為ではあるが、直接先生と話しが出来ない。
- ・ 外来をストップしている病院があると聞いています。また転院してリハビリが必要な人も、家族がお見舞いに来られないことなどを理由に、直接家に帰る方が増えているそうです。適切な時期に必要なリハビリが受けられていないのでは、と心配です。
- ・ 病院等での外来リハビリ等の閉鎖、外出先でのトイレ使用、感染防止
- ・ 管内から出ると2週間リハビリが受けられず病院によっては2週間診てもらえない。管内以外の友人知人親類が来たら病院で診てもらえない(オホーツク一部病院)

#### viii. その他

- ・ 節度ある態度で、新型コロナウイルスを乗り切りたい
- ・ コロナ禍であってもなくても従来通りの自治体や国への要望したい
- ・ 国や地方自治体には何も望むことはない。どうしようもない政治屋たちには甚だ不愉快！！日本人としての誇りが無くなってきた。内閣府は、この一年間(コロナの間)給料を全額返済すべし日本国民の税金から出ている給料を仕事をしていない国会議員に払うべきではない！！
- ・ 感染についての恐怖のみ拡大し、新しい生活様式を守ることだけが正義とされる傾向があること
- ・ 運動不足でコロナ太りになった。市区町村によって対応がマチマチで、居住地区では今回は前回と異なり閉鎖されている施設は少なく、街の人出もいつもと変わらない気がする。自分の身は自分で守るべく自粛生活しながらワクチン接種の迅速かつ正確な情報を期待している。
- ・ 2/4 市議員をよんで私達の苦勞を話してました
- ・ ①同調圧力に負けないように自分の考えを持ち、ぶれない行動をしたいと思っています。②「自分の安全・安心と他人の眠・他人に迷惑を掛けないようにしたい」の先輩のお言葉を守りたいと思っています。
- ・ これはコロナに関係ないんですが、ぼくのように身障者1級になるとサービスしてもらえるものも多くなります。集金してもらってるNHKが自動振替にして欲しいと言われました。手続きは簡単に済みましたが、先日、全額払ってる事がわかりました。何事もみんなていねいに対応してくれる人ばかりじゃありません。知らない間にとられてる事もあります。昔のようにそれぞれの生活様式を見て一軒一軒アドバイスされることを望みます。
- ・ ワクチンの定期接種が必要になるだろう。ちゃんとインフル接種の様に定期的に行えるのであろうか？

## IV.まとめ

- 今回のアンケートでは、多くの失語症のある方、ご家族、支援者の方のコロナ禍で生活や、新しい生活様式に対する対応、不安など、様々な生活にかかわる影響を調査することが出来た。また、それぞれの友の会での開催を中止または縮小している会、工夫をして開催をしている会、などの様子を知ることが出来た。
- 初めてのWEBでのアンケートを試みた。書面回答よりも多くの回答を得られたことで一定の成果といえる。会員以外の方に拡散しやすいといった点においてもWEB回答が成果を発揮したといえる。書面での回答は、当事者の方がご自身で回答されていたり、友の会などの活動の中で本アンケートを使用して会を実施したり、言語聴覚士が訓練の中で使用したりといったケースも見られ書面回答、WEB回答との並行利用が今後も必要になってくる。
- 失語症のある方向けアンケートでは、感染対策や感染予防に不安を抱えている方が多くみられていた。さらに医療機関の受診、サービスの利用が出来ないといったケースも多く、さらには、ご自身やご家族の収入が減少し、困りを感じている当事者の方が多くみられた。新しい生活様式に関するアンケートでは、約半数がマスクの着用によりご自身の息苦しさはもとより、相手の表情がわからなかったり、聞き取りにくかったり、普段より言われたことを理解することに時間がかかる、知っている人の顔が分からないなど、コミュニケーションに影響を与え、話し手にも、聞き手にも精神的な負担になっていることが分かった。言語機能のみならず、非言語である表情の分かりにくさにも影響みられた。オンラインの利用については、ないという方が多かったが、オンラインの利用があったが使い方が分からないという方も多く、また、オンラインの利用で困ることがあったという方もみられた。最近の変化については、特に変わらないという方が多かったが、不調や睡眠の問題、外出などが出来ないこと、何らかの不調を感じている方もいた。新しい生活様式が始まってよかったことは特にないという方が多かったが、反面、家族と一緒にいる時間が増えたり、自分の時間が持てるようになったり、オンラインが使えるようになったなど利点としてとらえている方もいた。
- ご家族向けアンケートでは、外出できないことでの不安や外出を自粛しているので困っているという方が多くみられた。また、ご本人(失語症のある方)の様子の変化について、睡眠の問題、怒りっぽくなる、不調の訴えなどを抱える方が増えていた。ご本人が感染予防について、マスクの着用について理解できているといった方が大半だったが、感染予防について理解していないこともある、理解することが難しいと答えられた方が約5%、マスクをすることが難しい方も約3%いらした。
- 友の会アンケートでは、通常通りに開催された会はなく、活動が出来なかったり、縮小したりといった会ばかりであった。開催場所の使用が出来なかったり、支援者が来られなかったりすることなども開催できない要因に挙げられていた。開催された会は感染対策を実施しながらの開催となり、消毒液の配置、ソーシャルディスタンスを保つ、マスクを着用したまま行うなどの対応をされていた。実施内容についても飲食をしない、歌を歌わないなどの感染リスクにかかわるような内容については避け、開催されていた。
- 自由記述については、失語症のある方やご家族、支援者の方から多くの意見が寄せられた。
- 国に要望したいことでは、失語症者への支援、失語症への理解、居場所づくり、さらには、失語症の方も理解できるような情報提供(わかりやすい表現を用いること・サイトの開設など)、また、オンライン利用に関する機器の提供や、機器の設置、使用に至るまでの指導者の配置、さらには、友の会のサポートに至るまで様々な意見が寄せられた。また、医者や看護師などが少しでも楽になるように、支援者へのPCR検査の拡充などといったことや、地域(自治体)からの情報発信、生活情報の確認できるなどより良い生活のための要望も寄せられた。

- ・障害ゆえの生活のしづらさについてでは、失語症への理解、わかりやすい言葉での情報発信、介護者が感染した時の不安等、普段の生活にかかわることが多数あった。友の会が開催されないことについて、楽しみがなくなり、交流が途絶えたこと、対策をとったうえでの開催を希望する声も多く上がった。また、多くの方が、会話の機会が減少し、言葉の出にくさが増悪、さらにマスク着用により、さらに理解力低下や相手の表情が見えずコミュニケーション能力の低下がみられていると意見された。また、外食時にセルフサービスが多くなり一人では通えなくなったという意見も見られた。外出の機会が減少し、失語症のある方、ご家族はストレスフルの生活を送っておられた。また、中には失業した、給料の減少などより切実な意見も多かった。中には、以前の生活と変わらない、障害にかかわることでは生活のしづらさは感じないという方も見られた。
- ・〈新しい生活様式〉で困ること、必要な情報については、失語症のある方の感染、家族の感染するのではないかという不安、また新しい生活様式への理解が難しいという意見もあり、それにより怒りっぽくなっている、イライラしているという意見も多数見られた。支援の難しさでは、ソーシャルディスタンスを保ったまま、またはマスクを付けたままでの支援の難しさが支援者より聞かれた。また、外出機会が減少すること、友の会が開催されないことで、社会とのつながりが遮断されたり、会話機会が減ったり、精神的不安定さが増悪するなど、多岐にわたる影響がみられることが分かった。オンラインの活用については、失語症のある方自身も使用方法が難しい場面もあるが、支援者が理解していないので支援できないといった意見も見られ、オンライン化についていけないことによる孤立への心配も上がっていた。
- ・〈新しい生活様式〉の中で、工夫して生活をしていること、良かった点なども多く上げられた。デリバリーを利用すること、散歩は空いている時間にすること、生活に慣れること、体操をすること、電話で済ませる、家の中に目が行き届いた、普段できないことが出来た、などの意見も挙げられた。また、オンラインを活用することが出来れば多くの方と交流を持てることが分かったことや、失語症のある方の中でもスマホを上手に使っている方がいることが分かったなど、前向きにとらえられている方もいらした。

① 基本情報

都道府県：（ ）都・道・府・県

回答者：失語症のある方・ご家族・ST・意思疎通支援者・ボランティア・その他（ ）

記入者：失語症のある方・ご家族・ST・意思疎通支援者・ボランティア・その他（ ）

ご本人の年齢：20歳以下 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

ご家族の年齢：20歳以下 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

生活環境：独居 / 家族と同居 / グループホームや入所施設等での生活 / その他（ ）

② 失語症のある方

■発症からの年数（ ）年

■コロナ禍の生活について

Q1.コロナ禍でどのようなことに不安を感じますか。（複数選択可）

- 感染予防への不安
- 感染する不安（ご本人、ご家族を含む）
- 体調管理・健康面への不安
- 収入等・金銭面への不安
- 外出できないことへの不安
- 外出することへの不安
- サービスが利用できなくなる不安
- 特に不安はない
- その他（自由記載：

Q2.コロナ禍で困っていることは何ですか。（複数選択可）

- 感染予防・対策
- 医療機関を受診できない
- マスクや消毒液など医療品不足
- 外出を自粛していること
- 食料を含め生活必需品を買うこと
- 健康維持や体力の低下・障害の重症化
- 会話機会の減少
- 学校や仕事に行けないこと
- サービスの利用が減ったこと、利用できなくなったこと
- ご自身や家族の収入が減ったこと
- 困りごとを相談できるところがない
- 困っていることはない
- その他（自由記載：

Q3.コロナ禍の生活で注意していることは何ですか？（複数選択可）

- 消毒をこまめにしている
- 手洗いをこまめにしている
- うがいをしている
- マスクをしている
- 外出を制限している
- その他（自由記載欄： \_\_\_\_\_）

■新しい生活様式について

Q1.マスクをしていると困ることはありますか。（複数選択可）

- マスクをしていると息苦しい
- 相手がマスクをしていると表情が解らない
- 相手がマスクをしていると聞き取りにくいことがあるが、聞き返しができない。
- 相手がマスクをしていると普段より言われたことを理解することに時間がかかる
- マスクをしていると知っている人の顔がわからない
- 特に困ることはない
- その他（自由記載欄： \_\_\_\_\_）

Q2.オンライン（パソコンやタブレット、スマホの画面を通して会話をする機会）を利用して話をするこ  
と(仕事も含む)や面会の利用ありましたか？

- ある →Q3へ
- 機会はあったが使い方がわからない
- ない

Q3.Q2であると答えた方は、オンライン化で困ることはありましたか。

- ある・ない
- ある方はどのようなことで困りましたか  
(自由記載欄： \_\_\_\_\_)

■ご自身の最近の状態やご自身のことについて

Q1.最近の健康状態とご自身のことについて（複数選択可）

- 身体的な不調が増えた/身体状態の悪化
- 睡眠の問題が増えた（寝つきが悪い、途中で目覚める、昼夜逆転）
- 食欲が大幅に変化（減った/増えた）
- 〔20歳以上の場合〕飲酒量が約2倍（またはそれ以上）
- 仕事やデイサービスなどに行くのがいやになった。
- 感染が怖くて、必要な外出（通勤・通院・買い物）などができないことがあった
- 怒りっぽくなった・感情の起伏が激しくなった
- 家庭内でのトラブルが増えた
- お金に関する心配事が増えた
- 特に変わったことはない

Q2.困ったことや分からないときに相談できる人、または場所（機関でも可）がいますか。

- いる
- いない

Q3.<新しい生活様式>が始まってよかったこと、楽になったことはありますか。（複数選択可）

- 家族と一緒にいる時間が増えた
- 外出しなければいけないストレスから解放された
- 人と会わないので疲れない
- 自分の時間が増えた
- オンラインを使えるようになった
- 特にない
- その他（自由記載： \_\_\_\_\_）

③ ご家族の方

■ コロナ禍の生活について

Q1.コロナ禍でどのようなことに不安を感じますか。（複数選択可）

- 感染予防への不安
- 感染する不安（ご本人、ご家族を含む）
- 体調管理・健康面への不安
- 収入等・金銭面への不安
- 外出できないことの不安
- 外出することの不安
- サービスができなくなる不安
- 特に不安はない
- その他（自由記載： \_\_\_\_\_）

Q2.コロナ禍で困っていることは何ですか。（複数選択可）

- 感染予防・対策
- 医療機関を受診できない
- マスクや消毒液など医療品不足
- 外出を自粛していること
- 食料を含め生活必需品を買うこと
- 健康維持や体力の低下・障害の重症化
- 会話機会の減少
- 学校や仕事に行けないこと
- サービスの利用が減ったこと、利用できなくなったこと
- 収入が減ったこと
- 困りごとを相談できるところがない
- 困っていることはない
- その他（自由記載： \_\_\_\_\_）

Q3. コロナ禍でご本人の様子に変化はありましたか。(複数選択可)

- 身体的な不調や症状を訴えることが増えた
- 睡眠の問題が増えたようだ(寝つきが悪い、寝起きが悪い、何度も起きている、昼夜逆転など)
- 食欲が大幅に変化したようだ(減った/増えた)
- 感染が怖くて、必要な外出(通勤・通院)などができないことがあった
- 怒りっぽくなった・イライラしてしまうことが増えた。
- 家庭内でのトラブルが増えた
- 特に変わったことはない
- その他(自由記載: \_\_\_\_\_)

■新しい生活様式について

Q1.感染予防(手洗いやマスクの着用など)についてご本人は理解していますか。

- 理解している
- ある程度は理解している
- あまり理解していない
- 理解することが難しい

Q2.マスクの着用について

- 抵抗なく着用
- 我慢して着用
- マスクをすることが難しい

④ 友の会(友の会に参加している場合のみ回答)

Q1.コロナ禍で友の会の活動に変化はありましたか?(複数選択可)

- 活動ができない(中止)
- 活動が縮小している
- 出席者の減少
- 退会者の増加
- 開催場所をつかうことができない
- 支援者\*が来られなくなった(\*支援者: 言語聴覚士、会話パートナー、意思疎通支援者、など)

Q2.コロナ禍でも友の会を開催した方に伺います。開催した際には感染対策をしていますか?

(複数選択可)

- 検温の実施
- 消毒液の配置
- 活動内容の変更
  - 歌を歌わない
  - 飲食をしない
  - 発声練習をしない
  - 当事者同士の話し合いをしない
- 外出をしない
- その他(自由記載: \_\_\_\_\_)
- ソーシャルディスタンスを保つ
- マスク着用

★コロナ禍の問題を通して国や自治体に要望したいこと（自由記述）

★コロナ禍で障害ゆえの生活のしづらさや社会的不利益を感じること（自由記述）

★<新しい生活様式>が始まり、困ること、必要な情報など（自由記述）

ご回答くださりありがとうございました。  
皆様のご意見を大切にさせていただきます。

---

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う失語症のある方及びご家族・友の会への影響」  
アンケート結果報告書

発行日 2021年5月20日  
発行者 園田尚美  
発行 特定非営利活動法人日本失語症協議会  
東京都杉並区久我山2-10-23  
電話 03-5335-9756 fax 03-5335-9757  
[URL:http://www.japc.info](http://www.japc.info)

©特定非営利活動法人日本失語症協議会 無断転載はご遠慮ください

---